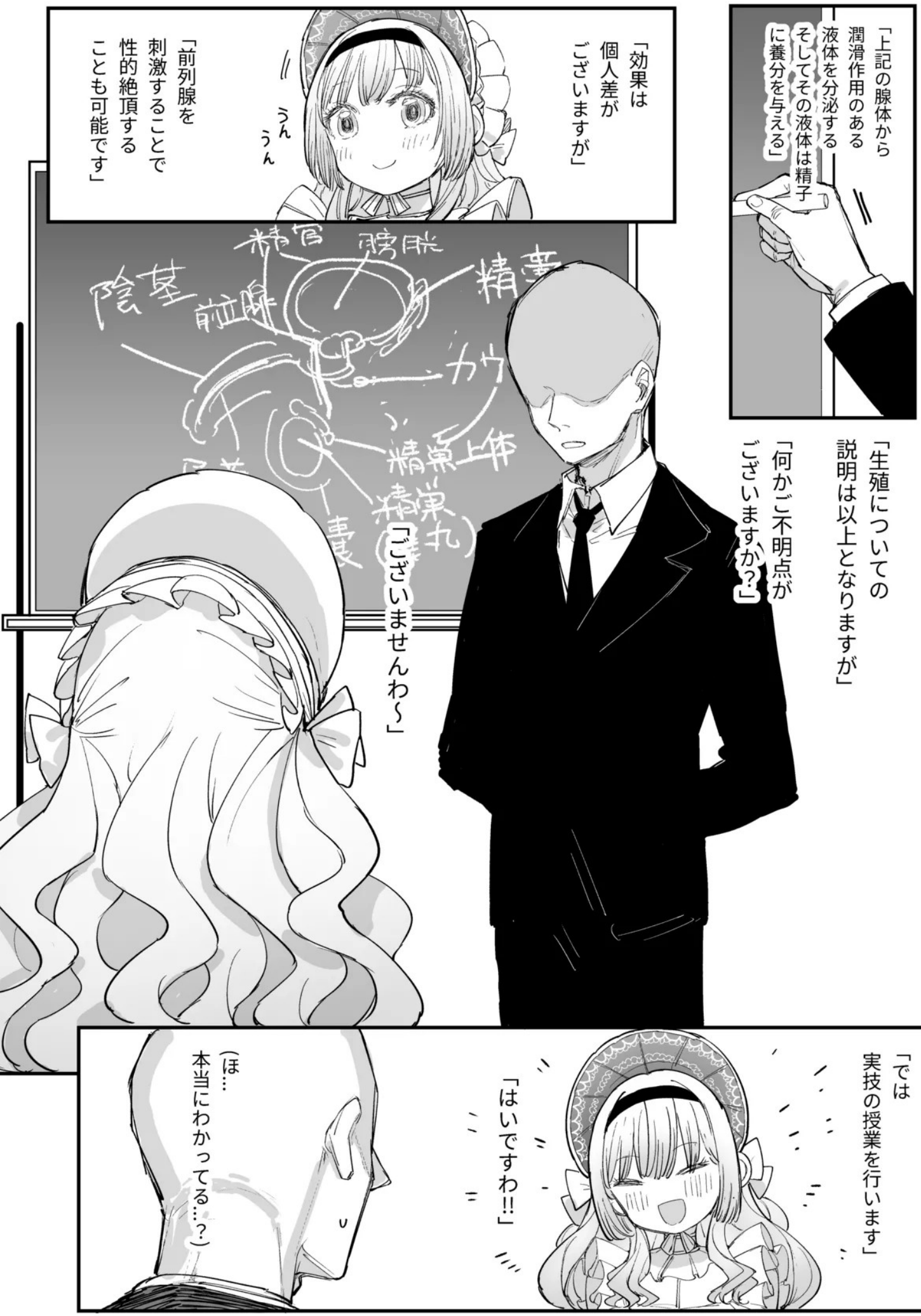

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止
お嬢様♂の
性教育


「……」
「ここ
街の中心部よね…」


「家庭講師として雇ってくださり」
「感謝いたします」
「お世辞は結構です」
「ちゃんと仕事をしてください」
「……」
辛辣!!
「話変わりますが上層階級の方も家庭教師雇ってらっしゃるですね」
「お嬢様もこういうのに対して興味を持ち始めた年頃ですので」
「休みの日で知識を身につけるのがよろしいかと」
「念の為に伝えておきますが」
「もしお嬢様に対して邪な気持ちを抱えてらっしゃるでしたらただでは済ませません。」
「わ、わかりました……」
「お嬢様家庭教師がいらっしゃいました」
「どうぞ」


「ご機嫌よう」
「わたくし
メルヤ・クスタアヴァ・スチュテレン
と申します」
「家庭教師様
よろしくお願いしますわ」


「上記の腺体から
潤滑作用のある
液体を分泌する
そしてその液体は精子
に養分を与える」
「生殖についての
説明は以上となりますが」
「何かご不明点が
ございますか?」
「効果は
個人差が
ございますが」
うん
うん
「前列腺を
刺激することで
性的絶頂する
ことも可能です」
精巣
陰茎
前立腺
膀胱
精管
精巣上体
精嚢
精巣
「ございませんわ〜」
「では
実技の授業を行います」
「はいですわ!!」
(ほ…
本当にわかってる…?)


「状況をチェックさせて頂きます
スカートをめくってください」
「こうかしら？」
「ははくすぐったいです」
「綺麗なお色です
触感も問題ない」
「ちゃんと綺麗にしておりますね」
「では失礼します」


「自慰行為をしたことございますか？」
「じいこうい？」
「あ……」
「申し訳ございません
先ほどの授業で
説明すべきでした」
「では
一度お手本
お見せいたしましょう」
「わかりましたわ
お願いします♪」


「先ず
陰茎に充分の刺激を
与えましょう」
「道具を使うのも
いいですが手の方は
一番手っ取り早いです」
「こうしで
撫で回して」
「そして陰茎が
固くなりました」
「感じましたか
血液がここに流れ込んで
いるのを」


「お～
朝起きた時の同じ
状態になりましたわ」
「はい
これは勃起といいます
触ってみましょうか」
「ぼっき……」


「次は自慰行為です
陰茎を握ってみてください」
「こうでしょうか？」
「そう
上下で動いてみ
ましょう」
「うん
うん…」
「ちょっと違います
お手伝いしましょうか」
ん!?


「こう
手を陰茎を包み込む
ように握りしめ」
「上下する時は
もっと刺激を与えるよう」
「もっと激しくしても
大丈夫」
「ま、待って…先生…
何か…出そうです…」
「我慢しなくても
大丈夫です
感じたら出してください」


「これで自慰行為のやり方をわかりましたか」
「うん……」
はあ…
はあ…！
「よろしい
では日課として
今週は毎日二回
練習してください」
「……わかりましたわ」


一週間後
「おはようございます」
「……おはようございます」
「前回と違うお洋服ですがとっても似合っております
髪型も愛らしいです」
「……」
「…どうされましたか？」
「わわ!!
きゅ、急に近づけると…」
「……どうやらあまりいい状態ではなさそうなので
授業はまた今度にしましょうか」
「い、いえ！大丈夫ですわ！」
「ただ…
いえ、本当に大丈夫ですわ！」
「この様子を見てると心配になってしまうので
些細なことでも構わないので説明して頂けますか？」
「わ、わかりましたわ…
実は……」


「ここ一週間
練習し始めた時
ぼっきすらできませんでしたわ」
「授業の時
上手くできたのに
落ち込みましたわ」
「そして授業中
先生のやり方を
思い出したら…」
むー
「私の隣で
手取り足取り教えてくれた
先生の顔が目に浮かんで
陰茎も段々固くなりましたわ」


「そして…
先生のことを思いながら」
「自慰…しましたわ」
はぁ
はー
「先生には
大変失礼なことをした
自覚はありますが」
「でも…
私の手が…」
「どうしても
止まりませんわ」
あ
ん
ん
ん
!?
う


「結局
先生との触れ合いを
妄想しながら
射精しました」
「そうなんですね
でもなんて
顔を隠してるんですか？」
「そ、それは
先生の顔を
見てると…」
「さっきの話を思い出すから
より恥ずかしいですわ！！」


「わかりました
自慰行為をしている時
他人のこと、他人との親密行為
思い浮かぶのはごく普通のこと
ですから
気に病む必要ない」
「…そうなのですね」
「でも
もしこちらの顔を
見るのが恥ずかしいでしたら
今後の授業は
後ろから行えましょうか？」
「本当によろしいのですか？
正直まだ
先生の顔を直視できないですわ……」
「はい　大丈夫です」
「では
今日は陰茎を触れずに
射精する練習をしましょう
まず胸から行きますね」
「わ…
わかりましたわ…」
ふー
ふー
「正確にいうと
乳首の方です」
「乳首とその周りを
刺激すると」
はっ
うっ
はっ
「よく見てご覧
ちゃんと勃起じてる
でしょ」
「ぼっき？」
「そう
これも
勃起です」


「角度とリズムを変えながら」
「乳首に刺激を与え続ける」
「先生…乳首…おかしい…おかしいですわ…」
「乳首敏感になってきましたねそれでは一度噤んで乳首が弄られた感覚に集中しよ」


はー
はー
お
お
お


うぅ
おぉぉ
は？
なぁ…


「少し休憩して後半の授業に参りましょう」
はぁ
はぁ
「それにしても初めての練習で成功するあなたはすごく才能あるんですね」
!
「……」
「……」
「本当ですか!!」
え、その…
授、授業を続いてください


「わかりました
ではスカートを脱いでください
椅子の上でお尻を向いてください」
「こうですか？」
「そう
もう少しお尻上げてくれますか」
「はい…」
「よくできました
それでは次は
前立腺イキをして
みましょう」
「ぜんりつせん…？」
「以前の授業で
前立腺のこと説明
したことありますが
忘れても支障はない
では実際やってみましょ」
やっ!?


「まず
前立腺の位置を
見つからないと
始まらない」
「一本目
無事入りました」
「最初は異物感を
感じるかもしれませんが
段々慣れてくる
と思います」
「ふむ…
随分吸いついてるから
リラックスしてください」
「はい…
深呼吸…」
!?
「二本目も入れます」


「基本は境目を辿ると見つかるはずですが…」
「お？当たりか」
ビクッ
「感じましたか？ここはあなたの前立腺です」
あ
あ
あ
ん
ん


「大丈夫ですか？
もしダメそうでしたら
一旦休憩しても…」
「へぃ…き…
…ですわ」
「わかりました
では次へと進めましょう」
「次を言っても
これで最後ですが」
「さっきの授業と同じく
ただただ前立腺を刺激するだけです」
ちゅ♡


はあ
は
はあ
ん!?
あ…
は!
あ…
お
ん
ん
はぁ
お
お!?
おぉ


ん!?
ん!?
ぐぐんぐぐ
ぴゅっ
ぴゅっ


はーー
はーー
「今日教えた二つの
やり方どっちも成功したね
大変よくできました」
!?
「ご褒美として
あなたに前立腺の機能を
一個教えましょう」
「え!?
な、なんですの!?」
「先生!?
なにをするのですか?」


「あの…先生……？」
「はい？」
「わ…わたくし射精したばかりですぐにぼっきなんてできませんわ……」
あ…
「大丈夫こういう時はこうして…」
あ
トン


「前立腺に…」
「少し…ほぐしてみると…」
「ほらこの通り勃ちまじたよちんぽ」


「しかし
ぼっきしても
もう射精ませんわ…」
はーわぁ
あ♡
「実は人の身体は
ご想像より遥に頑丈ですので
どうかご心配なく」


「授業の最後にメスイキを体験してみましょう」
ん♡
ん♡
ん♡
ん♡
ぷっ♡
ぷっ♡
ぷっちゃ♡
おあ♡
おあ♡
ヒク！


(こ、こわいですわ
もう射精せないはずなのに……)
(身体が…勝手に…)
うっ
ぴゅ
ぴゅる


はー
はー
はあっ
はっ
「せ、先生……」
「わたくし……ほ、ほんっと……」
はっらっ
お
お
おっ
「だ、」
「だめ……」
「です――――」
あ
あぁん
はぁ
はぁん


「だ、
だめ…」
「このまま…
射精したら…」
「こ、壊れちゃう……」
「うん…
そろそろ頃合いだ」
あん
あ♡
ぴゅ
ぴゅ♡
ぴゅ♡
「今です、
限界を達じたと
同時に搾り出すように
全力で射精してください」
「もう」
「もう…
出さないで……」
(あ……
でも…)
はあ
(身体が
言うこと
聞かない…)
は♡


「よくできました
今日はここまで」
「今日の授業
負担が大きかったので
数日休んでから練習を
再開しよ」
はっ
は
はい♡

初期デザイン





お嬢様(♂)の性教育

発行日：2025/12/31
作者：013
サークル：セロイチサン
印刷：ねこのしっぽ 様

X(旧Twitter)
@hamsasuke0

Pixiv
users/2932467

DLsite
(電子版)